

令和3年度 教育事業
教員免許状更新講習「教科指導・学級経営に生かす体験活動」

1 趣旨

教員が、学習指導要領の改訂で示された児童生徒の「体験活動」の必要性について一層の理解を深めるとともに、活動プログラムの実習を通して「体験活動」の充実に資する。

2 日程

(1) 期 日 令和3年8月27日(金)・28日(土)・29日(日) 2泊3日

(2) 参加者 13名

(3) 対象 教員免許状更新講習対象者

8月27日 (金)	午前	○受付 ○開講式 ○講義「学習指導要領と体験活動」 講師：金沢星稜大学 教授 井上好人 ○演習「体験学習法の体験①」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法（謎の宝島）
	午後	○演習「体験学習法の体験②」 講師：交流の家 次長 ・体験学習法（新聞紙タワー） ○講義「体験活動の教育的意義」 講師：金沢星稜大学 教授 池田幸應
8月28日 (土)	午前	○実習「体験活動の実際①」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・火起こし体験・野外炊飯（カレーライス作り）
	午後	○実習「体験活動の実際②」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・カヌー体験
8月29日 (日)	午前	○実習「体験活動の実際③」 講師：交流の家 企画指導専門職 ・ポイントオリエンテーリング
	午後	○講義「体験活動と安全管理」 講師：金沢星稜大学 准教授 芥川元喜 ○履修認定試験 ○閉講式

3 成果と課題

(1) アンケートによる事業評価

教育事業アンケートの満足度（「満足」、「やや満足」の評価割合）は、事業全体、プログラム、事業運営、職員の指導・助言や対応の4項目全てにおいて100%であった。

【事業全体の満足度】	満足:92.3%	やや満足:7.7%
【プログラム(講義・活動)の満足度】	満足:92.3%	やや満足:7.7%
【事業運営の満足度】	満足:84.6%	やや満足:15.4%
【職員の指導・助言・対応の満足度】	満足:92.3%	やや満足:7.7%

<参加者の記述より>

講義・演習

- 体験活動が子供たちにとってどんなよいことがあるのか分かったし、学力とどう結びついていくのかも考えることができた。
- 体験活動を実際に行うことで、新しい発見ができ、改めて自らが行うことが大事であることが分かった。
- リスクマネジメントについて、講義と実習を合わせて考える機会となった。
- 体験活動の意義や楽しさを確認できた。コロナ後、いろいろな体験活動を学校現場でしていきたいという思いがふくらんだ。

体験活動

- 体験をすることで、実感をもって分かることが多い。自分でやらなければ何も始まらないと感じた。
- 活動を楽しんで行いながらも、指導者として気を付けるべき点や、活動を行う前に指導しておくべき点などを考えることができた。
- 体験活動を通して、安全確認の重要性が分かった。
- 子供目線で体験し、その後教師目線で振り返り、グループで交流したことがよい学びになった。グループでの振り返りは、自分が気付かなかったことも知ることができてとてもよかった。

(2) 成果と課題

《成果》

- ・大学教授と交流の家職員それぞれの専門性を生かした講義・演習・実習を通して、自然体験活動の指導者として必要な知識や技能を習得することができた。
- ・子供の視点で体験活動を楽しむことにより、体験活動の重要性を再認識するとともに、指導者の視点から安全管理面での配慮事項について再確認することができた。
- ・コロナ禍ではあったが、感染症対策を徹底した上で、体験活動を行うことができた。

《課題》

- ・近年の異常な高温による熱中症のリスクや天候の急変等への対応も考慮し、実施する活動プログラムを検討する必要がある。



講義（オンライン）



演習「体験活動の実際①」火おこし体験



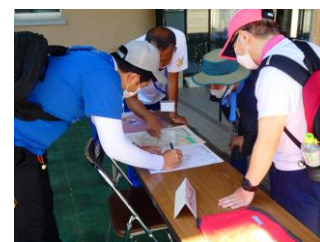
演習「体験活動の実際②」カヌー体験



演習「体験学習法の体験」
新聞紙タワー



演習「体験活動の実際①」野外炊飯



演習「体験活動の実際③」
ポイントオリエンテーリング